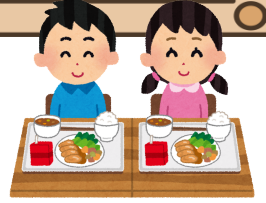


和地ひとみレポート No.232

東大和市議会平成29年第1回定例会 一般質問“新学校給食センターについて” 新学校給食センター開設を食育の向上に活かすべき



■第1回市議会定例会 一般質問

…2月23日から開会されている平成29年第1回市議会定例会で、私は以下のテーマについて一般質問で取り上げました。

■新学校給食センターについて

①4月の稼働に向けての準備状況について。

ア:調理配膳業務委託業者の準備の進捗について。

イ:人員配置状況について。

ウ:オペレーション準備について。

エ:食材の納入業者など、その他の関係機関や関係者に対する説明や準備について。

②新学校給食センター開設により、従前より学校給食の内容、食育面などの向上が期待できると思うが、具体的に準備、計画されていることは。

■市の資産管理状況について

①市が保有する資産について

ア:主な固定資産とその管理方法は

イ:主な流動資産とその管理方法は

②刊行物など販売を予定している市の制作物について

ア:現在、取り扱っている物の種類と数量は。

イ:制作部数などは今までの実績を踏まえて決定されているか。

ウ:保管状況と棚卸の実施状況について。

エ:有効期限が過ぎた後の在庫の扱いについて、廃棄する場合の手続きなどルールはあるか。

…今までも私は「新学校給食センター」建設について、建設コストを中心に、また、市民にとって親しみの持てる施設になることを要望するなど、一般質問で取り上げてきました。その建設コストに関しては、様々な要因により割高になったことは否めませんが、無事、竣工し、4月からの本格稼働を目前とした現段階においては、より良い給食を提供していただき、子ども達の食育に大いに役立つ施設となってもらいたいことを願っています。しかし、稼働1か月前になっても、その準備状況や稼働後に実現できることなどの情報が入ってこないため、今回、このテーマを一般質問で取り上げました。

■委託業者との準備状況は

…東大和市では、現在、市内2か所（第一給食センターと第二給食センター）の学校給食センターで市の職員が調理配膳業務を行っていますが、4月から稼働する新学校給食センターは、調理配膳業務を民間業者に委託します。

2か所あった給食センターが一つになるということは、食材などの納入業者の方の納品量も単純に倍になるので、納品時間の調整なども必要だと思われます。また、調理配膳業務を民間業者に委託するということも初めてのことで、スムーズに稼働を開始するための準備が必要です。そこで、準備状況について確認しました。

…委託業者との準備状況については「調理配膳業務委託事業者とは、契約後、月に1～3回程度打合せを行っている。打合せの中では、手作り給食など東大和市の給食の特徴やその対応方法、調理設備や献立等の確認などを実施している。人員配置については、委託事業者の方で、正社員異動や地域求人広告による募集などで、ほぼ確保できていると聞いている。オペレーションについては、新学校給食センター設備確認の際に、搬入した食材の運び方、加工方法など、実際の現場で、市の栄養士とともに確認作業を行っている。」との答弁でした。

■東大和市の学校給食の特徴

…委託業者との打ち合わせの中で、東大和市の学校給食の特徴を伝えていたとのことなので、その具体的な内容について確認したところ「手作り給食など、東大和市の給食の特徴やその対応方法、調理設備や献立等の確認などを実施している。また、東大和市で作られている野菜、地場産野菜の活用、噛む事の大切さを意識してもらうための『カミカミメニュー』や、日本の伝統的な行事食や郷土料理、国際理解を深めるために世界の料理を取り入れていることなどを伝えた。」とのこと。それに対する委託業者の反応については「東大和市の給食について、『ジャムまで手作り』している点などは、驚きの部分でもあったようだが、より子ども達が喜ぶ給食にするため尽力しますとの答えのほか、安定稼働後は、他自治体で実施している給食など様々な提案をしますとの申し出があった。」とのことでした。

■調理配膳業務委託業者は

…今回の調理配膳委託業者については、プロポーザル方式（複数の業者に企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った業者を選定する方式）で決定。実際には2つの会社から提案を受けた中から株式会社東洋食品が選ばれました。その選んだポイントについては「学校給食事業で全国展開をしている。献立開発、衛生管理、食育推進等多くのノウハウがある。具体的には、最新センター受託71箇所の実績から最新の調理機器を活かした郷土料理や人気メニューなど（裏面に続く）」

の提案、元保健所関係職員で構成している衛生部門での検査や巡回指導、独自の衛生管理、食育としては、他施設での実績を活かした調理員による学校訪問などがある。」とのこと。また、全国の学校給食センターの多くがワンフロアとなっている中、東大和市の新学校給食センターは2フロア（2階建て）となっていることから、2フロアでの調理配膳業務の経験がある株式会社東洋食品を選んだとのことでした。

…株式会社東洋食品が選ばれたという発表があった際、私は会社のホームページを確認し、全国展開している企業だということは分かりましたが、そこには具体的な自治体名などは、書かれていませんでした。そこで、近隣市など、実際に株式会社東洋食品が受託している自治体について確認すると「都内では世田谷区と狛江市など。また、平成29年の2学期から開始予定の府中市がある。」とのこと、東大和市は、それらの自治体に、株式会社東洋食品の状況などもヒアリングをして決定したとの答弁がありました。

■新たにできるようになったことは

…現在の東大和市の学校給食センターは昭和40年代から使用している古い建物。衛生管理についてもウェット方式（水を床に流して行う衛生管理方法）で、現在主流となっているドライ方式ではありません。新学校給食センターについてはドライ方式になり、より衛生管理状況が良くなるということは大きな改善事項です。それ以外にも様々な調理機が導入されることで、給食の内容も今まで以上に良くなるとのことでしたので、具体的にはどのようなことができるようになるのか確認しました。「果物裁断機の導入や三槽シンクの増により地元産の多摩湖梨の提供などができるようになる。また、割卵機の導入やスチームコンベクションオーブンの増により千草焼きやスペインオムレツなどの様々な卵料理が作れるようになることや、食品形成機の導入により手作りハンバーグもできるようになる。そのほか、揚物ラインが2つになることにより、例えば、『ちくわのカレー揚げ』と『ゴマ揚げ』の組み合わせで提供することが可能になったことが挙げられる。ただ、価格観的な観点や地元産食材を使用する場合は納品量が可能ななど課題を整理する必要があると考えている。」との答弁でした。

…そのほか、新学校給食センターには炊飯ラインも導入。今まで米飯業者から仕入れていたごはんも、センター内で炊飯するようになります。東大和市の学校給食では東日本大震災前には、定期的に友好都市の喜多方市のお米を提供していましたが、震災後には提供を停止しています。その理由については「放射能物質に対する不安」と「価格面の問題（喜多方のお米はブランド米なので少し高い）」があると市は説明してきまし

た。しかし、喜多方市は震災後、お米については全袋検査を実施し、放射能物質については基準以下と科学的に証明しています。また、昨年実施された、放射性物質全量検査においては、全ての玄米から放射性物質は検出されなかったとのこと。新学校給食センター稼働を機に、友好都市喜多方市のお米を導入するかどうかについて確認したところ「現在、喜多方米の使用は予定していない。全ての玄米から放射性物質は検出されなかったとの情報を聞いているが、流通経路や価格などの課題がある。また、『最初に子どもたちの口に入る学校給食に活用するのではなく、例えば、市内で広く消費されるようになってから、学校給食で再開しても良いのではないか』という意見もある。引き続き、情報収集を行い、慎重に対応したいと考えている。」との答弁でした。科学的に安全であるとの結果が出ているのに、“なんとなく不安”ということでは避けるといことは「風評被害」の原因そのものだと思います。相手にしてみれば、これ以上何をどう改善すれば良いのかと感ずるのではないのでしょうか。友好都市として「災害相互応援協定書」を締結しているのですから、まずは、市役所の食堂で利用するなど、学校給食で喜多方のお米を使えるような取り組みを進めてもらいたいと伝えました。

■食育面での学校との連携は

…新学校給食センター稼働を機に、学校給食は個々食器で提供されるようになります。今までは分割トレイだったため、お椀を持って食べる、ご飯は左、汁物は右などのマナーなどの食育はできませんでした。一方で個々食器になったことで、学校での配膳については慣れるまで混乱が生じる可能性もあります。特に低学年などは、食べる時間が少なくなる可能性も。これら混乱を抑えることや、マナー教育などについてはどのようなことが計画されているのかを確認。配膳については「各学校と調整のうえ、児童・生徒に実際の食器に触れていただくとともに、子ども達が円滑に対応できるよう、各クラスに盛り付け表を配布する。」とのこと。また、マナー教育などについては「学校と協議していきたいと考えている。」との答弁にとどまりました。例えば武雄市では、給食の時間を一つの授業と捉え、時間も40分とっています。混乱を避けるだけでなく、給食を食育という観点で捉えたこのような対応も検討してはどうかと提案させていただきました。

…新学校給食センターは30億円を超える大事業です。この投資を最大限に活かすには、稼働後の取り組みが必要。稼働1カ月前の今、納入業者等への説明会を「考えている」「学校と協議したい」ということではなく、具体的な計画を立て準備を進めるべきだと提言しました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外一般社会で挑戦しようとしてベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木 3-274-2-102